序

サウディアラビアは現在、世界最大の産油国であり、わが国を含めて、世界経済へのエネルギー安定供給の鍵を握る国であり、これまで石油収入を財源とする近代化を推進してきた。その一方で、メッカ、メディナの聖地を擁するヒジャーズ地方を国内に抱え、「２聖都の守護者」としてイスラーム世界の盟主とも言える地位を持つ国であり、毎年の巡礼を主宰してイスラーム的正統性を主張する側面を持っている。このような２面性を持つ同国について、これまでその実態は必ずしも明らかではなかった。

わが国でも、同国の重要性に鑑み、両国関係を強化する試みが行なわれてきたが、最近のアラビア石油の利権更新交渉とその失敗に見られるように、サウディアラビア側の政策決定過程の実態が不明であるのみならず、世界観や発想法に関わる文化的側面の理解も十分とは言えないのが現状である。同国の戦略的位置を考えると、同国についての基本的な情報をきちんと把握するだけではなく、さらに今後の研究の課題が何であるか検討し、十分理解を深めるための戦略を立てる必要がある。

さらに、政策的な観点から言えば、基本的な理解を深めるだけではなく、同国またはその周辺における政治的、軍事的危機に際して、どのような危機管理の必要があるのか考察する必要がある。サウディアラビアを中心とする湾岸地域で政治的、軍事的な危機が起った場合、わが国や世界経済にとってどのような影響が予想されるのか、あらかじめ検討しておくことも重要であろう。

平成12年度に日本国際問題研究所で行われた委託研究「サウディアラビアの総合的研究」は、以上のような問題意識を前提として実施された。プロジェクトの執行にあたっては、次のような諸点について、基礎データの集積を心がけると共に、研究会活動を通して討議、考察を行った。

＊　サウディアラビアの建国過程と現在の体制

＊　サウディアラビアの国力の評価、社会経済構造をめぐる諸問題

＊　立法・司法機能の実際と国内紛争の調停制度

＊　部族的社会の構造とナショナル・アイデンティティの形成

＊　サウディアラビア国家の正統性と宗教界の機能

＊　国内的な体制批判派および反体制勢力

＊　サウディアラビアの軍事力と湾岸の安全保障

＊　イスラーム世界における同国の位置と巡礼をめぐるポリティクス

＊　石油政策および先進国との戦略的、経済的関係

ご参加いただいた委員は、現時点における日本でのサウディアラビア研究という点では、ほぼありうべき最強のチームと言えるであろう。方法論的には、国際関係学および中東地域研究を主軸としながら、学際的なアプローチに努めた。また、基本資料、ドキュメント等について収集に努め、研究に役立てるよう配慮したが、その一部は本報告書の付録として収録した。

本報告書では、研究成果の一部を論文の形で収録したが、関係諸機関や関連分野の研究者の皆様に、より広い討議のための資料としていただくことができれば望外の喜びである。また、今後の研鑽のためにも、忌憚ないご意見をお寄せいただくようお願い申し上げたい。

作成にあたっては、次の編集体制で臨んだ。

小杉　泰（総編集）

松本　弘（副編集）

真下陽子（編集事務）

研究プロジェクトにさまざまな形でご参加いただいた皆様、プロジェクト執行上お世話になった外務省国際情報局他の皆様、日本国際問題研究所のスタッフの皆様に、心より御礼申し上げる次第である。

小杉　泰